自分の考えをもち、表現できる児童の育成
― 国語科における書く活動の充実を通して ―

○学校名　行田市立西小学校
○所在地　行田市持田３－５－９
○電話番号　０４８（５５４）５５５４
○E-mailｱﾄﾞﾚｽ　nishi-e2@tvg.ne.jp
○ホームページ　http://www.tvg.ne.jp/nishi-e/

１　研究主題

自分の考えをもち、表現できる児童の育成
― 国語科における書く活動の充実を通して ―

（１）研究主題設定の理由

本校は、目指す児童像に「自ら学び　こころ豊かに生きる児童」を掲げ、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指している。本校の児童は、素直で何事にも集中して取り組むことができるが、その反面、自ら考え行動することが苦手であり、教師の指示を待つことが多く見られた。そこで、昨年度まで、国語科を一つの窓口とし、様々な言語活動を通して基本的な知識・技能を身に付け、自分の考えをもって表現できる児童の育成について研究してきた。

これまでの研究の成果としては、①言語環境の工夫と充実により児童の言葉や語彙に対する興味・関心が高まったこと、②活動の共通化や見通しをもった学習活動及び授業展開により意欲的に学習に取り組む児童が増えたことなどが挙げられる。また、学習指導案の形式の共通化や「書く活動の流れ」の作成により、単元ごとの書く活動の明確化や焦点化できたことなど教師の「書くこと」の指導の在り方を共有することができた。

本年度、学力向上研究校指定事業を受けるにあたり、県や全国の学力・学習状況調査の結果を改めて見直した。国語の現状としては、県と比較すると同等もしくはやや上回っており、全国と比較するとやや下回っている。全体的に引き続き基礎・基本の定着が必要である。評価の観点でみると研究に取り組んできた「書く能力」に関しては前年度より向上しているが、「読む能力」に関しては伸びが低く抑えられている。設問を見てみると、文中から主語や述語を抜き出す問題が平均より低くなっている。このことから、文章を読み取る力や順序立てて書く力に課題があることがわかった。また、質問紙調査結果からは「原稿用紙２～３枚の感想文や説明文を書くことが難しい」、「自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることが難しい」と捉えている児童が多いことも分かった。

そこで本年度は文章を正しく読み取る力や読み取ったことを互いに伝え合う表現力を高める児童の育成を目指し、これまでの研究課題を継続することとした。同時に、国語科の学習内容を日常生活等で活用できる児童の育成を目指すこととした。取組としては、本年度もどの領域においても「書く活動」に重点をおき、すべての学習の基礎・基本となる言語に関する知識理解を定着させること、授業をはじめとする実践を通して「自分の言葉で表現する」楽しさを体験させることなどを中心にしていく。県や全国の学力・学習状況調査等各種調査の結果を活用し学校全体並びに一人一人の学力が向上するよう研究を進めていきたい。

（２）研究の仮説

【仮説１】身に付けさせたい言語能力を明確にし指導にあたれば、児童一人一人が自分の考えをもち、学習や日常生活に活用できる力が育つのではないか。

〈手だて〉主に学習指導部が中心となり、基礎基本の定着と伝え合う力を高める場面設定の工夫で、表現力を育てていく研究を推進していく。

（例）○話し方、聞き方（対話）　○音読カードの見直し
○スキルタイムの計画　○漢字大相撲の実施と分析
○個に応じたワークシートの作成検討

【仮説２】語彙力を高める言語環境を整えれば、言語活動に広がりが見られ、表現する力や活用する力が育つのではないか。

〈手だて〉主に言語環境部が中心となり、語彙力を高めるために環境の整備を進め、活用力を育てていく研究を推進していく。

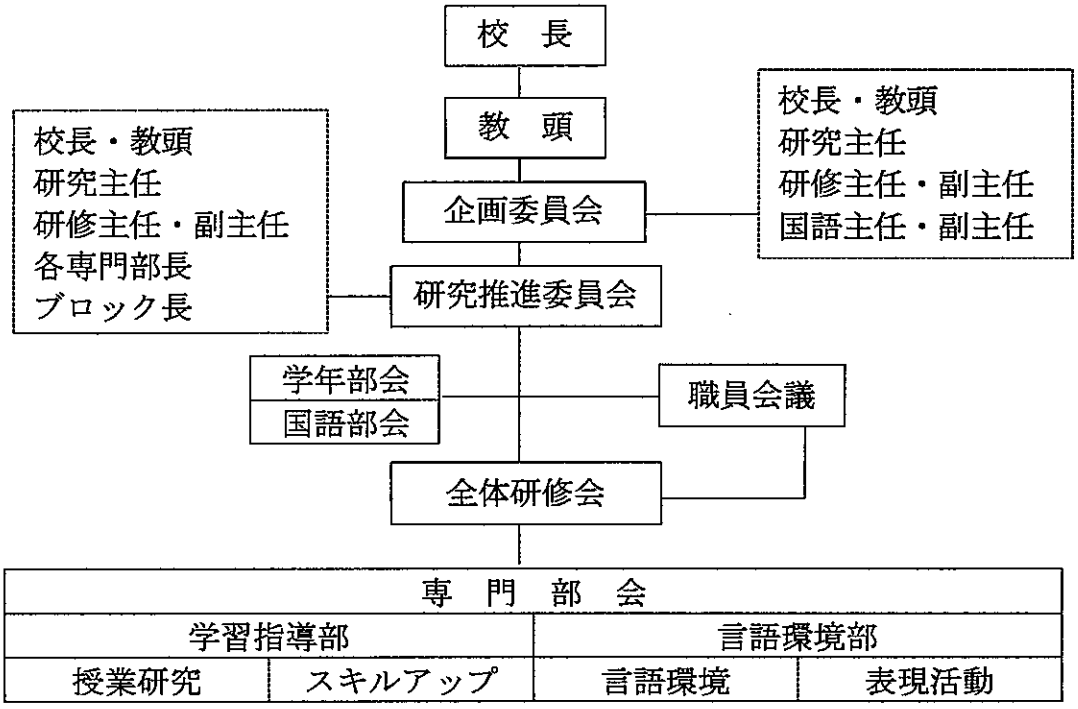
（例）○言語環境の整備　○各学年の学習内容の発信
○図書室の利用

（３）学校の課題　（グランドデザインより）

ア　基礎的・基本的な学習内容の定着
イ　言語環境の充実及び表現(書く)力の育成

２　研究の実践

（１）研究組織



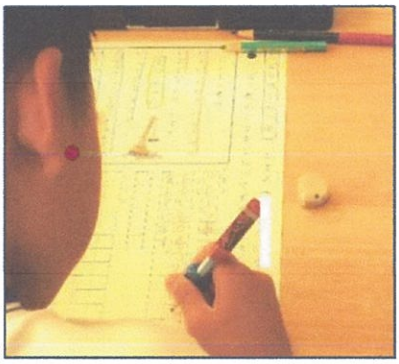
（２） 各部の実践・・学習指導部

ア 授業研究

①指導案の見直し

・単元を通して児童に「習得させたい力」を明確にする。

・読み取る力をつけるための「書く活動」を意識した授業展開を構想し、学習指導案の中に「書く活動」を位置付ける。



②読み取る力をつけるための「書く活動」

・読み取る力をつけるための「書く活動」を思考の流れ（個→ペア・グループ→全体→個）に合わせて行う。実践を通し、授業の中でどのような「書く活動」を取り入れたらよいかについてまとめる。

③個人カルテの作成

・児童が個々に身に付けた力を（次年度）に引き継ぐものとして、系統性を考えた指導や発達の段階に応じた指導に生かすことを目指して作成する。

・一覧にすることで、各学年で身に付けた力や個々の変容の様子が分かるようにする。

④基礎的学力実態調査

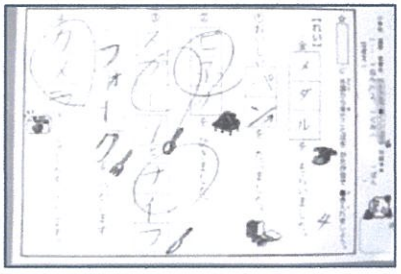
・児童が個々に身に付けた基礎的な力を把握し、それぞれの課題を明確にして学力向上のための個に応じた指導ができるように実態調査を行う。

・現在の学力を把握するため、音読調べ・筆速調べ・漢字の読み書き調べについて行い、個人カルテに記載する。

イ スキルアップ

①全学年国語の方眼ノートを使用し、原稿用紙の書き方等の定着を図る。また作文資料のファイルを作成し、個々の「書く」力の伸びを調べる。

②学力向上ワークシート（コバトンプリント）を活用し、文法や語彙の使い方の定着を図る。個人達成度表を作成する。



【コバトンプリント】

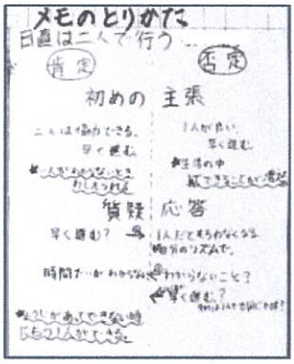
【個人達成表】

③年５回、全校での学年自作の漢字テスト（漢字大相撲）に向け練習プリントを作成し取り組ませる。学習内容（テスト）範囲が明確になることで、学習意欲の向上、基礎学力の定着を図る。

④県学力・学習状況調査復習シートを活用し、児童の日頃の復習に利用する。

⑤教科書にある文章の文の構成例を視写させることを通して「読み」を深めさせ、文章構成の基礎を身に付けさせる。

授業にもこれらの経験を活かせるようにする。



【スキルアップタイムでの視写】

（３） 言語環境部

ア 言語環境

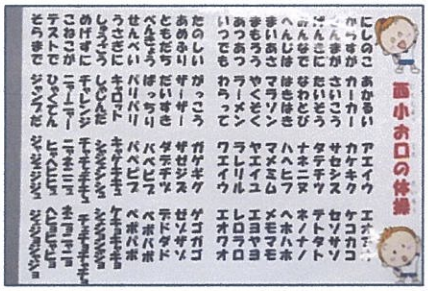
①国語コーナーの充実

・今月の詩を掲示する。

・原稿用紙の使い方・推敲の仕方を掲示する。

・西の子口の体操を掲示する。

②ことわざ・四字熟語の短冊を作成し、各階段に掲示する。



【西の子　口の体操】

【児童の目にふれるよう、ことわざを階段に掲示】

イ 表現活動

①季節の言葉の児童の作品を掲示

・各学年の教科書にある季節の言葉を活用して学習後の作品を掲示する。

②児童による行事作文、日記等の掲示

・表現力を高めるため、学年の行事や日々の日記を掲示する。

③児童に読ませたい詩の作成

・学期ごとに各学年で選ばれた詩を掲示する。

【季節の言葉】

【行事作文】

３ 研究の成果と課題

（１） 成果

ア 学習指導部では、中学校国語の免許をもつ教員が部会に入り、新たな視点を加えた指導について研究を進めることができている。

イ 書くことの日常化が定着しつつあり、書くことへの抵抗がなくなってきている。今後も継続して取り組んでいく。

ウ 言語環境部では、校内の言語環境を進めた結果、もともと国語が好きな児童がさらに興味・関心を高めている様子が伺える。

（２） 課題

ア 個人カルテについては、６年間続けること、教員に大きな負担をかけないことなどを考慮しているが、さらに改良の余地がある。

イ 児童の中には、まだ一定量の文章を書いたり、考えを文章にしたりすることに対する苦手意識が見られるので表現の仕方についての支援を工夫していく。